

筑波大病院に

筑波大学は2015年6月、学内や茨城県つくば市内の研究機関を持つ医療シースの実用化を促すため、付属病院内に「つくば臨床医学研究開発機構」

つくばの新たな挑戦

4

イノベーションエコシステムの構築

T-CReDO

マネジメント部、臨床試験がさまざまな基準を順守して行われているかを客観的に評価する監査・信頼性保証室を設置して支援体制や管理機能を強化した。

起業者教育も

医療品や医療機器の開発には、国の基準に

また、自らの研究を

研究者が臨床研究をするための支援体制を構築する。すでに医療シースの原型ができてい

る研究者に対しては、非臨床薬理試験や知財獲得、外部資金獲得などに

医工連携実証

このほか、機構内の

未来医工融合研究センターでは医療品や医療機器などに関わる実証

医療研究の実用化加速

合研究センター、次世代医療研究開発・教育統合センターを統合再編して発足。開発戦略

沿った治験を行った上で医療機器総合機構(PMDA)への申請や厚生労働省の承認が必要。だが「つく

ばには医療シースの実用化をサポートするた

社会に生かすという視

涯教育などを担当する

研究などを扱う。付属

同機構は、付属病院の臨床研究推進・支援センター、未来医工融

産、外部資金の獲得支援などを担う研究開発

ばには医療シースの実

創業者や起業者の経験者ら

スの策定、職種ごとに

実証研究を行いやすい

環境が整っている。今後、学内外の関連組織や研究機関との研究開発に関する連携、

を語る。(隔週木曜日に掲載)



筑波大は付属病院内にT-CReDOを設立した

者への起業者育成カリキュラムの学位プログラム化なども検討している。つくば全体を巻き込んだ医療研究の実用化への取り組みについて、

荒川義弘機構長は「従来から課題だった臨床試験のプロセスと研究者育成体制の改善を通じていく」と意気込み